

田島中学校区学校整備計画(案)説明会

～こどもたちと生野の未来のために～



生野区長 山口 照美

小規模校の小学校校長から、生野区長へ

最初のキャリアは塾の校長
小4～中3の国語と受験指導

➡ **小中連携**の重要性を痛感

浪速区敷津小学校で3年間校長
最小人数の学年は12名
すべて単学級（1学年1クラス）

➡ **小規模校**のメリット・デメリットを経験している

区長の前に1年間、教育委員会に

➡ **学校再編（適正配置）**は国の方針であることを理解



学校再編に関する行政の考え方

6年間クラス替え無し

同級生が10名程度の
学校も出現

クラス替えができる環境、
せめて高学年までに仲間が
増える環境を用意したい！

教員の若年化・多忙化

隣の担任に学べない

教員同士が学びあい、
助け合える環境を用意し、
教育の質を上げたい！！

P T A 参加者の減少

小規模校を避けた転出

まちの人口流出・高齢化を
止めるには、子育て世代に
選ばれる教育環境が必要

教育的・まちづくりの観点で再編は避けられない

教育的な観点で最初にお願ひしたこと

平成31年4月に、3学年すべてが単学級になる見込みだった**鶴橋中学校**と、同じく小規模化の進みつつある**勝山中学校**を、両校のPTA・地域のみなさんの理解を得て小学校と別に緊急に再編を実施

平成31年4月

桃谷中学校 開校準備中



校地は勝山中学校を活用

第2グラウンドとして
鶴橋中学校運動場を活用

新1年生：90名程度（3クラスの予定）

H 2 6 年に示された「生野区小・中学校教育環境再編方針」では、H 2 9 年度末に西側の小学校は再編が完了しており、仲間と学びあう環境を用意できたはずでした。

しかし、賛否両論の中で進めることが難しく、今もなお小学校の再編は1校も実現していません。

その間に、たった6名で卒業してしまう学年も出ています。



学校再編をしなければ、どうなる？

**学級数減⇒
教員数減**

**学年の人数減
⇒集団教育が
困難に**

**小中一貫校では
ない統廃合に**

**校区外・区外への
子育て世代流出**

反対の方の思いは受け止めつつも「再編をしない、先送りにする」ことは難しい状況です。

田島中学校区・平成31年度の各校予定人数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
田島小	30	33	31	25	43	34
生野南小	27	27	37	29	34	26



人数	57	60	68	54	77	60
学級数	2	2	2	2	2	2

田島中学校区・平成31年度の各校男女比（推計）

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
田島小	9	21	16	17	13	18	13	12	23	20	16	18
生野南小	14	13	9	18	24	13	17	12	18	16	9	17



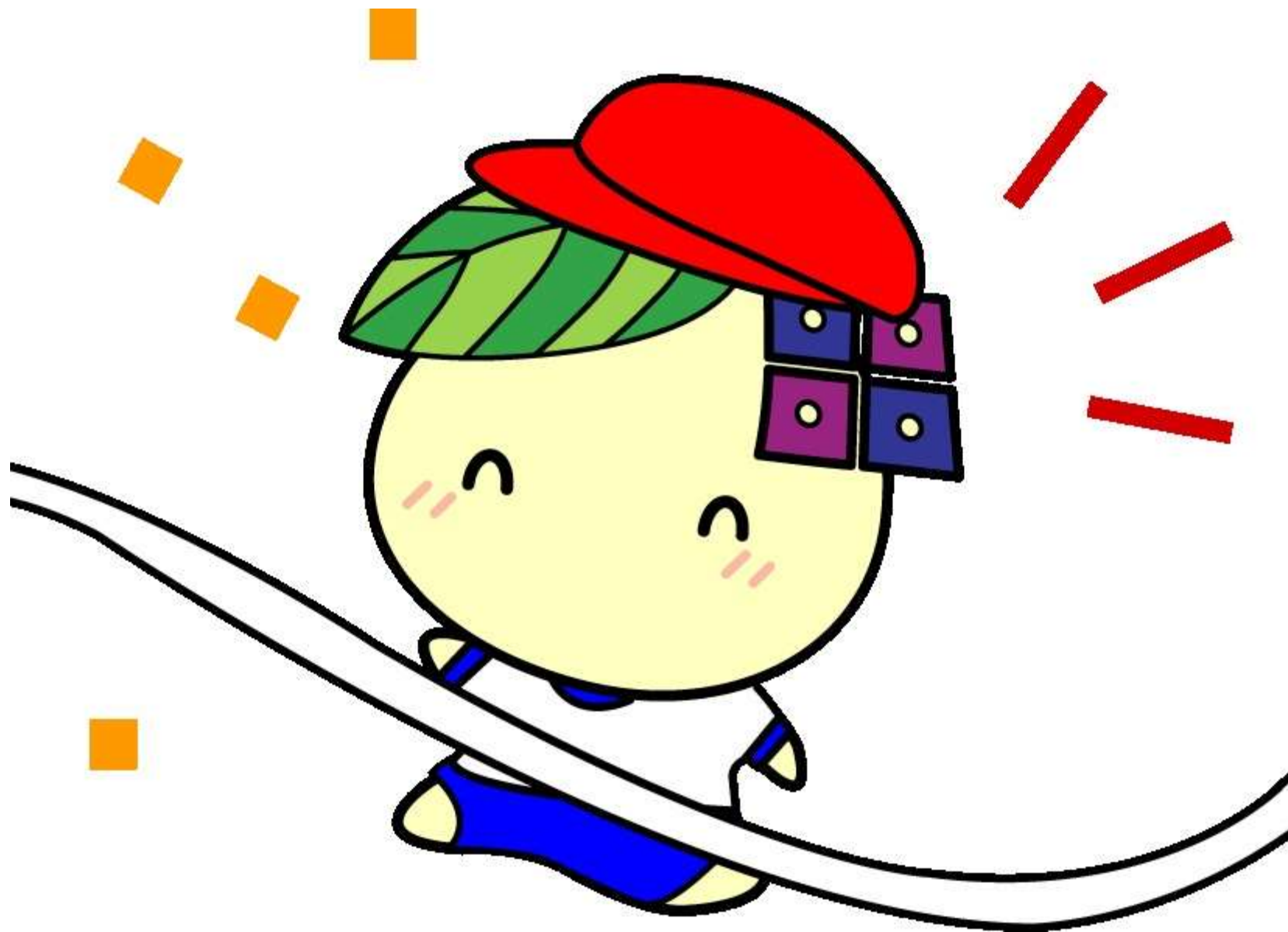
人数	23	34	25	35	37	31	30	24	41	36	25	35
学級数	2		2		2		2		2		2	

大阪市内の学校統廃合の状況

年	区	名称	対象校
H 2 6	浪速区	塩草立葉小	立葉小が塩草小校地に統合
H 2 7	大正区	鶴町小学校	鶴浜小が鶴町小校地に統合
H 2 7	西成区	新今宮小学校	萩之茶屋小・弘治小・今宮小を 今宮中学との小中一貫校に再編
H 2 7	西成区	梅南津守小学校	津守小が梅南小校地に統合
H 2 8	平野区	長吉東小学校	長吉六反小が長吉東小校地に統合
H 2 8	東淀川区	西淡路小学校	西淡路小を淡路小校地に統合
H 2 9	浪速区	浪速小学校	日本橋小・恵美小・日東小を 日本橋中学との小中一貫校に再編
H 3 0	住之江区	南港みなみ小学校	南港緑小と南港渚小を 南港南中学との小中一貫校に再編



全国的には年間 5 0 0 校前後の廃校が生まれている状況で、日本全体の少子化の中で学校の維持運営が厳しくなっています。



よくあるご意見①

「なぜ急がないといけないの？」
「緊急度の高い学校から進めればよい！」



今後も「1学年1クラス」が継続する見込み

各校・新入生の見込み

※H30.5.1の校区内に居住する0～5歳児の人数を基に、
過去の転出入・進学率を加味して推計

田島小 H32:33名、H33:27名、H34:35名、
H35:29名、H36:26名

生野南小 H32:30名、H33:28名、H34:39名、
H35:36名、H36:35名

各学年で単学級が解消されるまで児童数が増えればよいが・・

クラス替えのできる環境、子育て世代に選ばれる教育環境を
一日でも早く実現したい！

よくあるご意見②

「子どもが減った一因は交通の利便性！」
「学校再編の前に交通問題やまちの活性化に
取り組むべきでは？」



空き家対策や子育て支援など地域活性化の取組は進めています

子どもの数が大幅に増える見込みがない中で、小規模校での
教育的な課題解決も必要

「子どもたちの教育環境の充実」と
「まちの活性化」を並行して進めていきます！



よくあるご意見③

「災害時に学校は必要！」 「跡地が民間管理になれば避難所として利用できないのでは？」



災害時避難所（防災拠点）としての機能確保が大前提

そのうえで、

コミュニティ活動の拠点機能
まちの活性化につながる活用方策を検討

民間貸出しの場合も、避難所としての利用を条件として設定
（中学校も含めて必要な避難スペースを再整理します）

よくあるご意見④

今の案が決まったのはいつ？
住民の意見も聞いてほしい！



平成26年3月「生野区小・中学校教育環境再編方針」

平成27年2～8月

「これからの教育環境を考えるワークショップ」

- 《意見》 ●行政が案を示してくれないと議論できない。
●小中学校の子どもとの交流、教員の連携が大事。

平成27年7月「生野区西部地域教育特区構想」

中学校区を基本に学校配置を再構築し、小中一貫した教育の充実を基本方針とする。

平成29年7月「生野の教育」（中学校区別再編計画の方針）

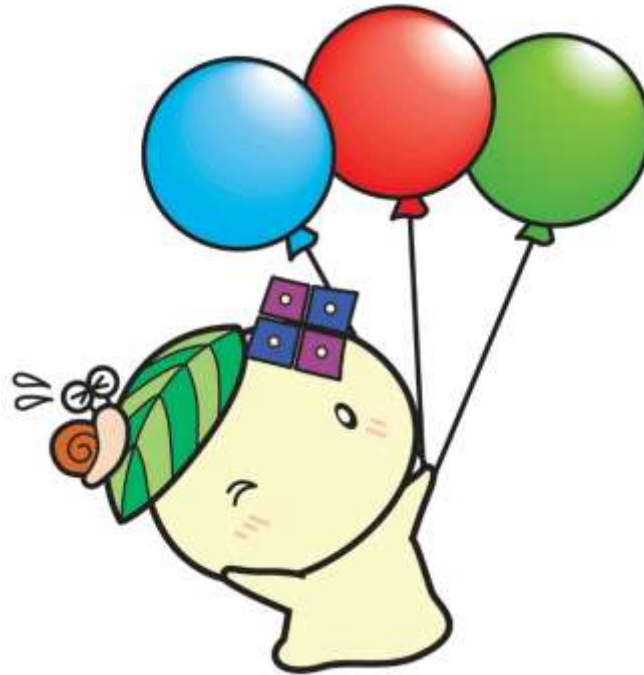
延べ8回の説明会、地域・PTAとの意見交換を実施

数年間にわたる話し合いの中で、今の案を固めて
来ました。少しでも早くこどもたちに「仲間と学ぶ
機会」をつくるために、設計予算を取り「**最短で
H33年度開校**」の選択肢を残しています。



今日は行政として、地域・保護者のみなさんの声も
お聞きしながら策定した「**田島中学校区学校整備計画
(案)**」をご説明します。

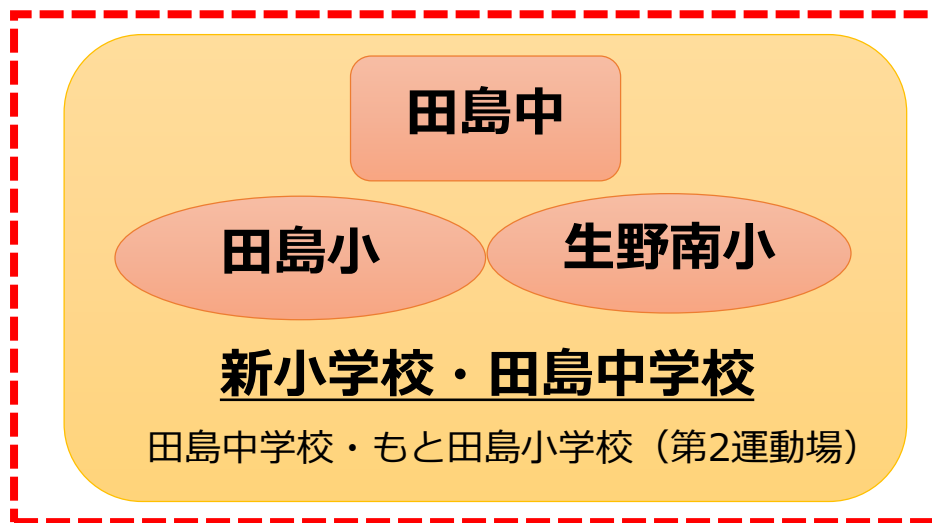
田島中学校区の再編案



田島中学校区の新たな学校配置案



- 新たな小学校（小中一貫校）の施設として活用
- △ 新たな中学校の第2運動場として活用



新校区の通学距離 (最長)

田島小学校区	約0.9 km
生野南小学校区	約1.3 km

新たな学校の児童生徒数見込み

H30(2018)年児童生徒数

田島中
(164名)

田島小
(196名)

生野南小
(176名)

1年 33名／1クラス

2年 31名／1クラス

3年 25名／1クラス

4年 43名／2クラス

5年 34名／1クラス

6年 30名／1クラス

27名／1クラス

37名／1クラス

29名／1クラス

34名／1クラス

26名／1クラス

23名／1クラス

H36(2024)年

田島中学校
160名／学年2クラス

新小学校
371名／学年2クラス

1年 61名／2クラス

2年 65名／2クラス

3年 73名／2クラス

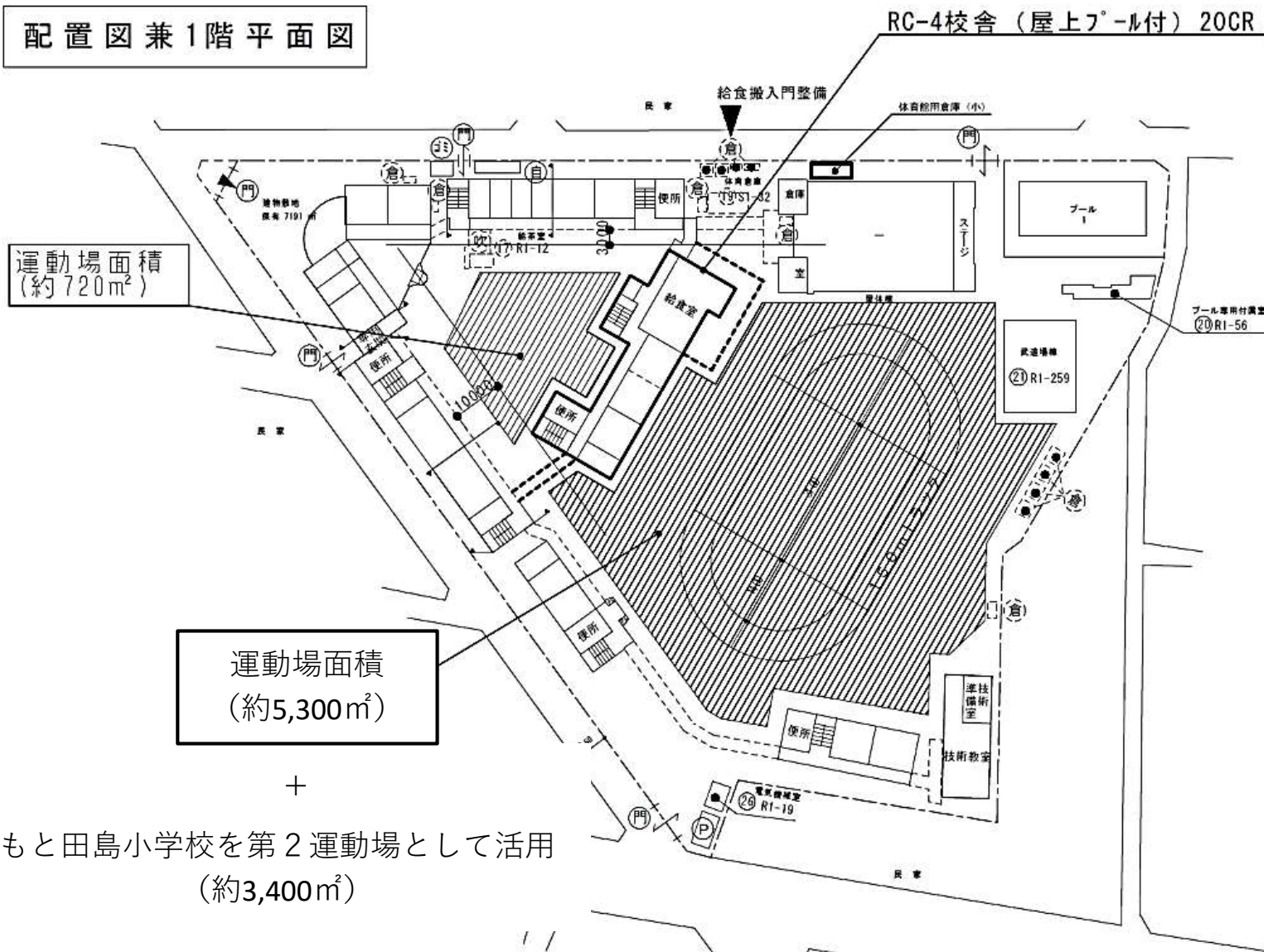
4年 55名／2クラス

5年 65名／2クラス

6年 52名／2クラス

新たな学校開設に向けた施設整備

配置図兼1階平面図

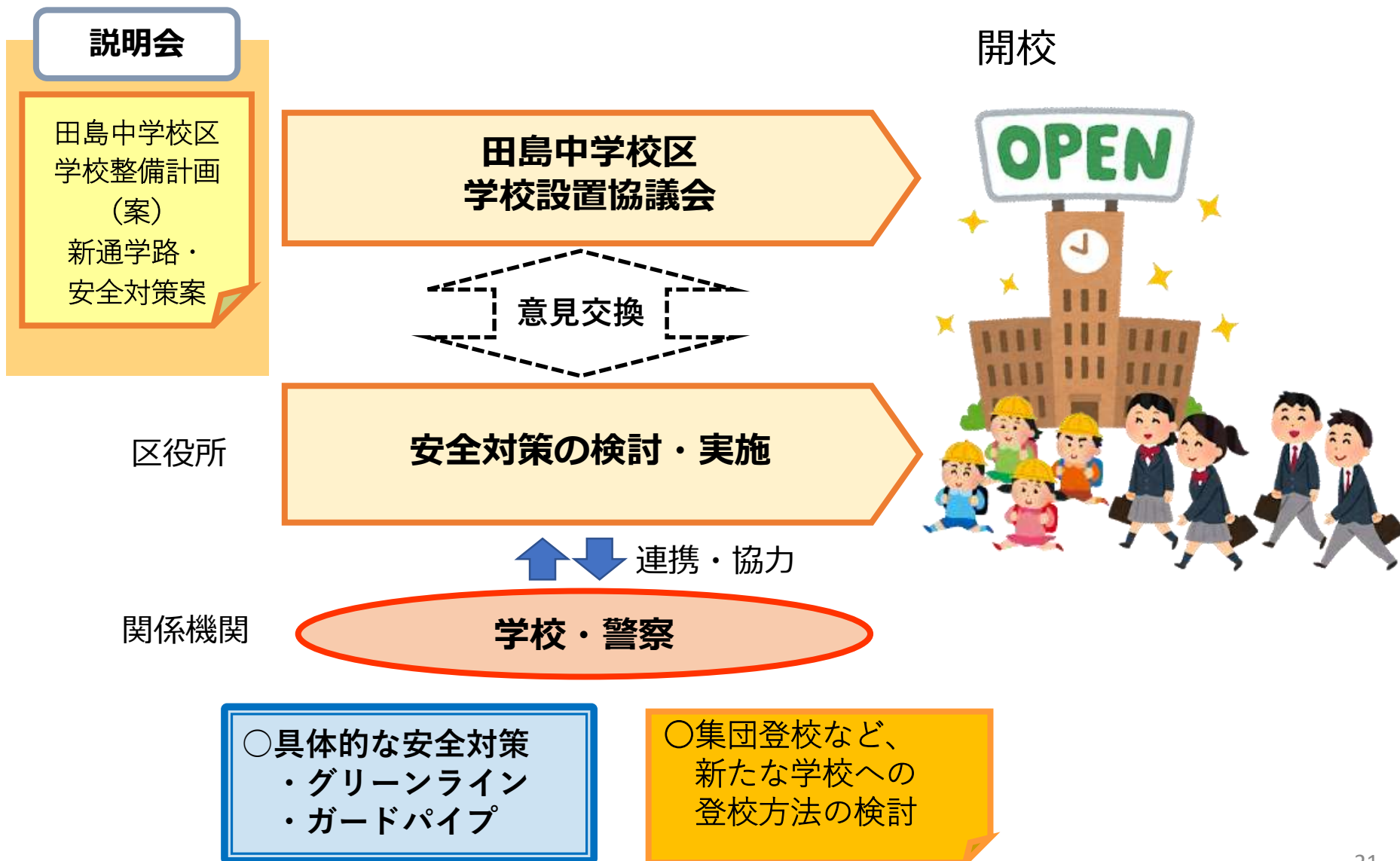


新たな学校の開校時期（最短スケジュール）

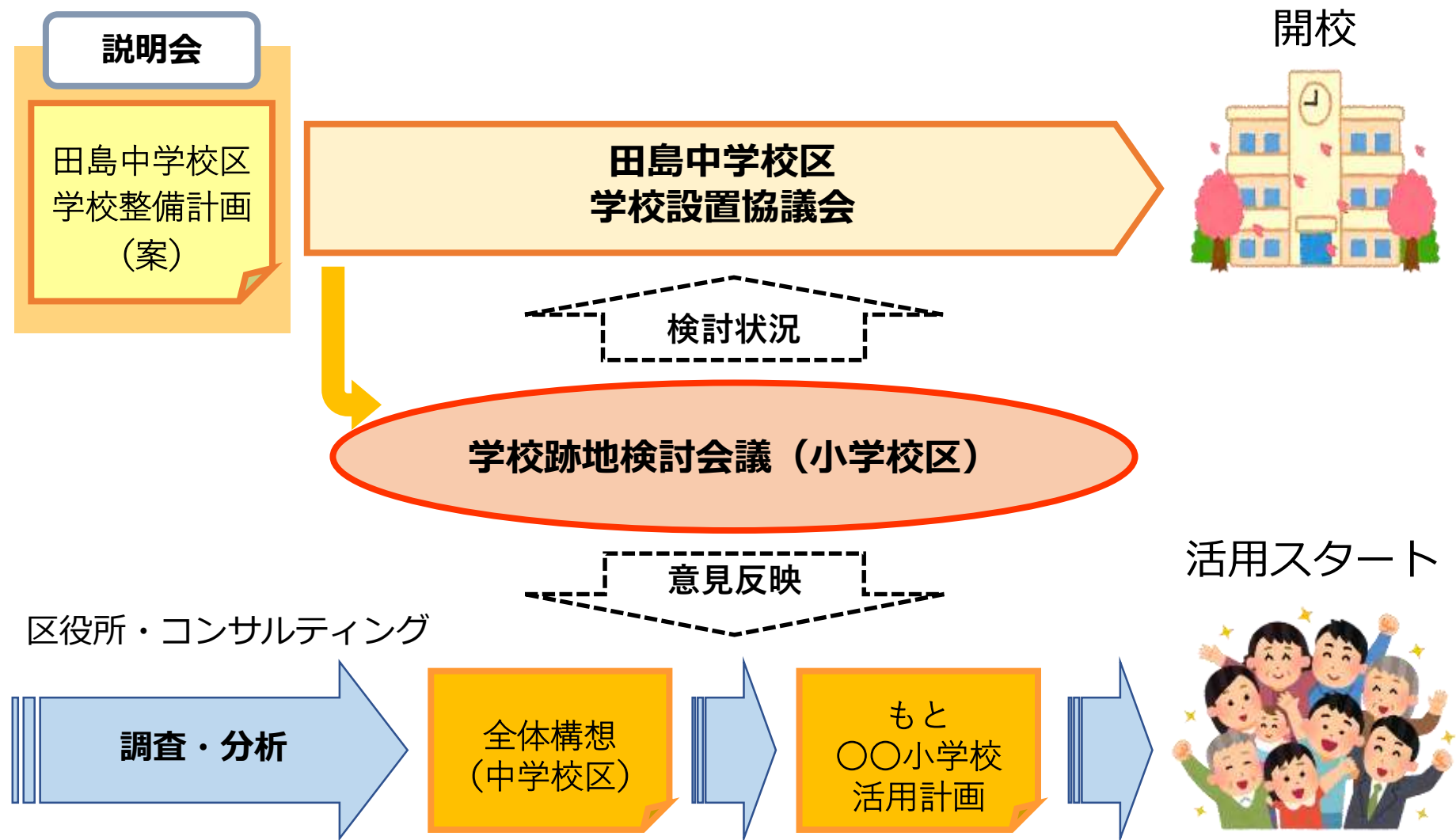


※2021（平成33）年4月開校のためには、11月末までに開校時期の確定が必要

通学路の安全対策



跡地検討の進め方



(具体的な学校のイメージ)
は後ほどご説明します。



学校設置協議会

田島中学校区 学校設置協議会

